

『願い』 一歩前へ

けい ちつ

啓蟄やいのちの響き聞くような

長浜市立西中学校 学校だより 第13号

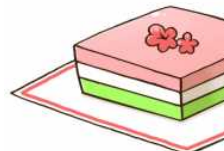
令和5年3月1日 発行文責：小川淳三

生活スローガン「あすこそは」

あいさつ・スマイル・こしほね・そうじ・はきもの

3月に入りました。3月は「弥生^{やよい}」とも呼ばれます。弥生の「弥」には「いよいよ」「ますます」の意味があり、たくさんのものが生まれて植物が花盛りになるとき、ということだそうです。3日のひな祭りが「桃の節句」といわれるのは、この頃がちょうど桃の花が咲く頃であり、桃の花には昔から邪気(じゃき)を祓(はら)う力があると考えられているからです。(桃から生まれた桃太郎が無事に鬼退治できたのも魔除(まよ)けとなる桃のおかげかも知れません)

また、ひな人形に添えられる菱餅(ひしもち)や、ひなあられに見られる白・緑・桃の3色はそれぞれ、雪の大地(白)・木々の芽吹き(緑)・生命(桃)を表しており、この3色のお菓子を食(しょく)すことで、自然のエネルギーを授(さず)かり、健(すこ)やかに成長できるという意味があるそうです。(3日の給食には、ひなあられが付きます)



そして、6日は二十四節気の「啓蟄^{にじゅうしせつき}」。啓蟄とは、冬ごもりしていたカエルやヘビなどの動物、昆虫たちが地中から出てくるころという意味です。春の暖かさが土の中まで届き、動物や昆虫たちも冬の眠りから覚めるそうです。次の詩の作者「みみず」も起き出すのでしょうか。

おまじない
みみず みつお
こわいとき
となえる
おまじないがある
じぶんにもわかって
こういうんだ
「おい、ぼくよ
ぼくがいるから
だいじょうぶ
ぼくがいるから
だいじょうぶ」
すると
ぼくが
ふたりいるみたいで
げんきになる

工藤直子さんの詩集『のはらうた』(11号でも取り上げました)にある詩です。工藤さんは、のはらに住む様々な生き物になりきって、詩を書いておられます。この詩が創られたときのことを工藤さんは次のように語っておられます。『小学校のとき、さびしくなると鏡の中の自分に向かって「大丈夫、直ちゃんには直ちゃんがついてる！」って話しかけてたの。そしたらもうひとりの自分が味方になってくれたみたいで、ひとりぼっちじゃないって、元気が出てきたんだ。その時のことを”みみずみつお”くんに読んでもらったの』

暗い土の中を一人で掘り進んでいくミミズの気持ちはどんなものなのかなあ。出口の見えない真っ暗なトンネルの中を進んでいく気持ち、なんとなくわかるような・・・。

こんな時に「**ぼくがいるからだいじょうぶ**」「**わたしがいるからだいじょうぶ**」と、おまじないを唱(とな)えてみてはどうでしょうか。きっと元気が出てきますよ。 全部が大事ないのちです。

いのち
花です
虫です
からだです
鳥です
草です
こころです
それらはみんないのちです
いのちは
どれも
ひとつです
いのちのふるさと
地球もひとつ
風が吹き
雲の流れる地球のうえに
要らないものなどありません
互いに支えているんです
見えない手を出し 声を出し
互いに支えているんです
どれもひとつで
どれにもひとつ
全部が大事ないのちです
小海永二^{こかいえい}

14日には「第76回卒業証書授与式」を迎えます。「卒業」といえば「終わり」という意味強いのですが、「巣立ち」ともいわれるように、出発の意味があります。164名の「巣立ち」が行われる卒業式。人生のひとつの階段を終えるお祝いの日です。いつの時代にも、どこの国でも新しい門出に人は祝福をしました。花を贈ったり、物をプレゼントしたり。そして一番端的(たんてき)に心を託(たく)することができるのが、歌うことでした。

ちなみに「巣立ち」とは、鳥の親が雛(ひな)鳥が飛べるようになると、きっぱりと別れを告げることを意味します。本来は厳(きび)しい別れを意味します。甘えてはいられません。

卒業式で3年生が心をついに歌う『旅立ちの日に』。インターネットにこんな記事がありました。

この曲の生みの親は、当時秩父市立影森中学校の校長先生だった小嶋登先生と、音楽の先生だった坂本浩美先生。クラスのまとまりもなく、荒れる学校を建て直そうと思いついた小嶋校長は「歌声の響く学校」にすべく、みんなで合唱をする機会を増やすことにした。

初めはなかなか成果が表れなかったが、「歌には人の心を変えていく大きな力がある」と信じていた小嶋校長と坂本先生は粘り強く努力を続けた。やがて生徒たちの心にも変化が芽生え、みんなで声を合わせて歌う楽しさから、いつしか学校も明るい雰囲気(雰囲気)に変わっていったのだ。小嶋校長が目指した「歌声の響く学校」になったとき、その集大成として、小嶋校長が歌詞を作り、音楽の坂本先生がメロディーをつけて生まれたのが「旅立ちの日に」という曲であった。完成した曲は92年の3年生を送る会で、小嶋校長と先生たちによって、影森中学校の生徒の前で初めて歌われたのだ。実はこの年、小嶋校長は定年を迎え、自分にとっての卒業式でもあったのだ。この日のためだけに作られた「旅立ちの日に」という曲は、先生から生徒へ、翌年も歌い継がれていった。そして他校の先生たちにもこの曲は評判となり、全国の学校に広がっていった(フジテレビでの紹介から)。

『旅立ちの日に』は、このような「願い」から生まれた歌だったんですね。願いはエネルギーとなって学校を変えていきました。やはり、歌には人の心を変えていく大きな力があります。10月に開催できた合唱コンクールでの歌声・勇姿を思い出します。勇気を翼に込めて広い大空へと飛び立ってください。3年生の巣立ち・旅立ちを、みなでお祝いしましょう。

旅立ちの日に

作詞…小嶋 登

作曲…坂本 浩美

白い光の中に 山なみは萌えて

遙かな空の 果てまでも 君は飛び立つ

限り無く青い 空に心ふるわせ

自由を駆ける鳥よ

ふり返ることもせず

勇気を翼にこめて 希望の風にのり

この広い大空に 夢をたくして

懐かしい友の声 ふとよみがえる

意味もない いさかいに泣いたあの時

心通ったうれしさに抱き合った日よ

みんな過ぎたけれど

思い出強く抱いて

勇気を翼にこめて 希望の風にのり

この広い大空に 夢をたくして

いま別れの時

飛び立とう 未来信じて

弾む 若い力信じて

この広いこの広い大空に

(※) 繰り返す

(※)

3月の主な学校行事予定

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| 3 (金) 1年生：がん教育 | 16 (木) 県立高校二次出願 |
| 8 (水) 県立高校一般学力検査 2年生：確認テスト | 17 (金) 1年球技大会 ※小学校卒業式 |
| 9 (木) 部活動送別会 | 20 (月) 2年球技大会 |
| 13 (月) 3年生：同窓会入会式、式練習 | 23 (木) 大掃除 |
| 14 (火) 「第76回卒業証書授与式」 | 24 (金) 修了式 |
| 15 (水) 県立高校入学許可予定者発表 | |
- ☆学年行事の詳細は各学年より連絡いたします。

